

西要寺だより

第93号 令和元年9月13日



●孟蘭盆会法要

例年通り、8月13日（火）14日（水）15日（木）午前11時より、孟蘭盆会法要をお勤めしました。

今年は台風が15日頃に来る、という予報でありましたが、15日の午前中はまだ大丈夫だったので、無事にお勤めすることができました。13日は約80人、14日は約60人、15日は約15人の門徒さんがお参りに来られました。3日共に、最初に皆さんと一緒に『仏説阿弥陀経』をお勤めし、その後、前住職と住職が30分ほど話をさせていただき、12時すぎに法要を終了しました。

次のようなお話もさせていただきました。まず、本堂に入られるときは、お堂の阿弥陀さまに向かって一礼して入ります。次に阿弥陀さまの正面まで進み、阿弥陀さまにご挨拶（合掌礼拝）して下さい（お焼香の準備がしていたら、お焼香します）。つまり、本堂の主は住職ではなく、阿弥陀さまです。皆さんは人の家に行かれたら、家の主に挨拶をしますね。それと同じで、本堂に入られたら、まず本堂の主である阿弥陀さまにご挨拶（合掌礼拝）して下さい。これから心がけていただくように、お願いします。



●お仏壇を持つということ

皆さまの家にはお仏壇がありますよね。息子さん宅や娘さん宅にもありますか？ いやいや、私が亡くなったら息子の家にお仏壇をうつしておまつりしてもらおうようにしますので、元気なうちは私がお守りしますので大丈夫です、と言われます。一見、もっとも正しいことのように思われますが、果たしてどうでしょうか？ 昔はどの家庭も二～三代で同居されていました。当時の家庭では、おじいちゃんが仏壇におまいりするとすると、子や孫もおじいちゃんの後ろに座り、家族全員でお仏壇にお参りしました。お仏壇は私たちの生活に深く入り込んでいたのです。しかしながら、今ではおじいちゃんやおばあちゃんは、息子さん一家と一緒に住むことは少なくなってきました。

祖父母や両親がお仏壇に手を合わせる姿を見て、また一緒に手を合わせることで、子や孫は仏さまやご先祖さまのありがたさを知り、お仏壇が大切なものだと学んできました。そして同じように、それを次の世代に伝えてきました。しかし、最近ではそうした光景を目にすることが少なくなっています。お盆やお彼岸など特別な日にしか、お仏壇に手を合わせないという人も少なくありません。ご先祖さまやお仏壇が、私たちにとって身近な存在ではなくなっているのです。



しかしながら、今の私たちがあるのは、さかのぼればご先祖さまのおかげです。その感謝の気持ちは、仏壇を通して育むことができます。お仏壇に手を合わせ、「ありがとうございます」と言うことは、他の人に「ありがとう」と素直に言うことの訓練になります。子どもたちに教えていきたいことです。

また、忙しい生活に追われていると、したいと思っても、どうしてもお仏壇の前でゆっくり手を合わせることはできませんが、ほんの少しの時間でよいので、仏壇の前に座って手を合わせ。そして深呼吸してみてください。その一呼吸で心のゆとりが生まれます。忙しいと気持ちに余裕を持たなくなるものです。

仕事や人間関係でストレスを抱えた時には、仏壇の前で阿弥陀さまやご先祖さまに愚痴をこぼしてもよいのです。阿弥陀さまは私の悲しみや苦しみを、仏さまの悲しみや苦しみとして受け止めて下さっています。私一人で悲しみ、苦しんでいるのではないよ、とあたたかくつつみこんで下さいます。もちろん、うれしいことがあれば、それをご報告しましょう。阿弥陀さま、ご先祖さまも同じように喜んでくれるはずですよ。

そのようなお仏壇は実家にあるのですが、ご自身の家でも持たれることは、ご自身にとってもご家族にとっても子どもさんにとってもいいことで

あると思います。立派なものでなくて良いのです。手軽なものは西本願寺で手に入れることができます。この機会にご検討なさってはいいかでしょうか。

●いのちを考える

食事を摂る前の「いただきます」という挨拶は、「あなたの命をいただきます」という食べ物の生命に対する感謝の気持ちを表すものだと言われています。次のお話を読んでください。

牛を殺すとき、牛と目が合う。そのたびに坂本さんは「いつかこの仕事をやめよう」と思っていた。ある日の夕方、牛を荷台に乗せた一台のトラックがやってきた。「明日の牛か…」と坂本さんは思った。しかし、いつまで経っても荷台から牛が降りてこない。不思議に思って覗いてみると、10歳くらいの女の子が、牛のお腹をさすりながら何か話し掛けている。その声が聞こえてきた。

「みいちゃん、ごめんねえ。みいちゃん、ごめんねえ……」
坂本さんは思った（見なきゃよかった）。女の子のおじいちゃんが坂本さんに頭を下げた。

「みいちゃんはこの子と一緒に育てました。だけん、ずっとうちに置いとくつもりでした。ばってん、みいちゃんば売らんと、お正月が来んとです。明日はよろしくお願いします…」

（もうできん。もうこの仕事はやめよう）
と思った坂本さん、明日の仕事を休むことにした。家に帰ってから、そのことを小学生の息子のしのぶ君に話した。しのぶ君はじっと聞いていた。一緒にお風呂に入ったとき、しのぶ君は父親に言った。

「やっぱりお父さんがしてやってよ。心の無か人がしたら牛が苦しむけん」

しかし、坂本さんは休むと決めていた。翌日、学校に行く前に、しのぶ君はもう一度言った。

「お父さん、今日は行かなんよ！（行かないといけないよ）」
坂本さんの心が揺れた。そしてしぶしぶ仕事場へと車を走らせた。牛舎に入った。坂本さんを見ると、他の牛と同じようにみいちゃんも角を下げて威嚇するポーズをとった。

「みいちゃん、ごめんよう。みいちゃんが肉にならんとみんなが困るけん。ごめんよう」

と言うと、みいちゃんは坂本さんに首をこすり付けてきた。殺すとき、動い



て急所をはずすと牛は苦しむ。坂本さんが、
「じっとしとけよ、じっとしとけよ」
と言うと、みいちゃんは動かなくなった。次の瞬間、みいちゃんの中から大きな涙がこぼれ落ちた。牛の涙を坂本さんは初めて見た。

(『いのちをいただく』西日本新聞社より)

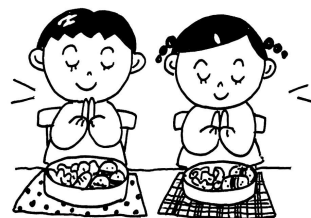
『いのちをいただく』のあとがきに、福岡県で助産婦をされている 内田美智子さんはこう書かれています。

「私たちは奪われた命の意味も考えず、毎日肉を食べています。自分で直接手を汚すこともなく、坂本さんのような方々の悲しみも苦しみも知らず、肉を食べています。『いただきます』『ごちそうさま』も言わずにご飯を食べることは 私たちには許されないことです。感謝しないで食べるなんて許されないことです。食べ残すなんてもってのほかです…」

【食事のことば】

《食前のことば》

多くのいのちと みなさまのおかげにより
このごちそうを めぐまれました。
深くご恩を喜び ありがたくいただきます。



《食後のことば》

尊いおめぐみを おいしくいただき、ますます 御恩報謝につとめます。
おかげで ごちそうさまでした。

◎西要寺ホームページ・Instagram・ライン

ホームページ・Instagramをちょこちょこ更新していますので、お気軽に御覧下さい。検索する場合は、「尼崎 西要寺」から出てきた検索結果のなかに、西要寺ホームページは出てきます。Instagramの方は、アプリをダウンロードしないといけません(アプリが無くても閲覧は出来ます)。詳しい方、もしくは住職までお尋ねください。



Instagram

[saiyouji.a](https://www.instagram.com/saiyouji.a)



ホームページ

[saiyouji.com](https://www.saiyouji.com)



ライン

西要寺(堀)